

令和3年度 事業実施計画書

国府町まちづくり協議会

1. モデル的事業名	コミュニケーター養成事業
2. 事業名	飛騨国府歴史まちづくり推進事業 「国府遺産コミュニケーター」養成事業
3. 目的	地域の特性として「歴史・文化」が挙げられるものの、その特色がまちづくりに十分に活かされていない。来訪者等に地域の歴史文化遺産＝《国府遺産》をわかりやすく説明案内できるガイドを「国府遺産コミュニケーター」と位置づけ人材養成を図る。
4. 事業内容	<p>日本遺産の構成文化財を含む国府地域の歴史文化遺産を《国府遺産》と総体的に捉え、講座やガイド体験を通して、《国府遺産》を子供たちや来訪者に説明案内できるようなガイド「コミュニケーター」を養成する。「コミュニケーター」は、観光ガイドのスキルに加え、地域の特性である歴史・文化の奥深さや魅力を専門的知識がない人にもわかりやすく伝えられる人材を意味し、歴史・文化について自分で調べて学ぶことのできるスキルの習得をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> ・てんこもりツアーにガイドを派遣。 ・知識向上を図るため専門家等を招き講座を開催（徹底解説編「山城」「古墳」「民具」「建造物」「仏像・円空仏」）。 ●平成31年度 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史をテーマとした「まち歩き」ツアーを開発し、養成したコミュニケーターの活躍の場とする。 ・てんこもりツアーや親子歴史教室などへガイドを派遣。 ・地域の歴史遺産の魅力について深く学び、内外にどのように発信するかを探るための講座を開催（「民俗芸能」「考古資料」）。 ●令和2年度 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史をテーマとした「まち歩き」ツアーを開発し、養成したコミュニケーターの活躍の場とする。 ・てんこもりツアーや修学旅行などへガイドを派遣。 ・地域の歴史遺産の魅力について深く学び、内外にどのように発信するかを探るための講座を開催（「古代地名」「大原騒動」「石造物」）。 ●令和3年度 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史をテーマとした「まち歩き」ツアーを開発し、養成したコミュニケーターの活躍の場とする。 ・地域の歴史遺産の魅力について深く学び、内外にどのように発信するかを探るための講座を開催（「民俗（地域回想法）」「美術工芸」「中世史」「自然・地理」「古代史」） ・ニーズに合わせたガイド派遣の体制整備や、講座やイベントの受付対応、広報事務、会計などの業務を担当する事務局人件費を確保する。 ・高山中心部から誘客しうる着地型観光商品を開発するためのモニターツアーを実施する。歴史まち歩きやまが玉づくり体験など歴史体感プログラムをツアーに組み込み、地域の魅力を来訪者に五感で味わってもらえるコンテン

	ツ開発に取り組む。
5. 効果見込	<ul style="list-style-type: none"> ・「国府遺産コミュニケーター」養成事業として継続的に行っていく講座やツアーが、「国府遺産コミュニケーター」養成事業によって養成されたコミュニケーターの活躍の場の1つとなる。 ・開発された国府遺産まち歩きコース・ツアーが、観光客や歴史研究者等の誘致につながっていく可能性が期待される。 ・地域の魅力を再発見することで、さまざまな局面で新たな価値を創造する可能性が期待される。 ・地域住民に地域への誇りと愛着を育むことで、住み続けたいと思えるまちづくりの実現に近づくことができる。

令和3年度 事業スケジュール

「国府遺産コミュニケーター」養成事業

月 日	項 目	事業内容（対象・方法等）	摘 要
4月～	テキスト作成	講座で得た解説ポイントをふまえたテキストをカード式で作成	
6月	視察	先進事例視察（南アルプス市）	
4月	歴史まち歩きツアー	ブラ国府 ―半田編―	
9月	講座	徹底解説編1「美術工芸」の巻	
9月	歴史まち歩きツアー	ブラ国府 ―三川編―	
10月	講座	徹底解説編2「民俗（地域回想法）」の巻	
10月	歴史体感ツアー	モニターツアー実施（高山駅発着バスツアー）	
10月	講座	徹底解説編3「中世史」の巻	
11月	ガイド体験	てんこもりツアーにてガイド体験	
11月	歴史まち歩きツアー	ブラ国府 ―今編―	
11月	講座	徹底解説編4「自然・地理」の巻	
11月	歴史まち歩きツアー	ブラ国府 ―宇津江編―	
12月	講座	徹底解説編5「古代史」の巻	

令和3年度 モデル的事業 収支予算書
 (「国府遺産コミュニケーター」養成事業)

【収入】

単位：円

区分	予算額	摘要
市補助金	1,110,000	協働のまちづくり支援金(モデル的事業)
自主財源	21,200	協働のまちづくり事業から繰り入れ
合計	1,131,200	

【支出】

単位：円

項目・科目	予算額		摘要
	予算額	支援金充当額	
事業費			
人件費	300,200	284,400	事務局人件費 [講座受付・広報事務・会計等] $950円 \times 24時間 \times 12か月 = 273,600円$ +土日の講座対応28時間 = 26,600円 ※950円の内、50円分は自主財源で負担 $50円 \times 316時間 = 15,800$
人件費	30,000	30,000	テキスト作成の委員報酬 $1日5,000円 \times 6日 = 30,000円$
報償費	170,000	170,000	講師謝礼 講座 30,000円 \times 5回 ツアー 5,000円 \times 4回
旅費	160,000	160,000	講師交通費 110,000 (徹底解説講座) 先進事例視察 50,000円
使用料	300,000	300,000	会場使用料、バス借上料
需用費	80,000	74,600	印刷製本費等 チラシ印刷10,000円 \times 7回程度
役務費	91,000	91,000	チラシ配布13,000円 \times 7回程度
合計	1,131,200	1,110,000	